

三重県および宮崎県で採集されたトウガタガイ科貝類 —ミエイトカケギリ（新称）及びダンダンイトカケギリ（新称）—

三浦知之

〒 880-0035 宮崎県下北方町平田

Abstract

Two species of pyramidellid mollusks collected from Mie and Miyazaki prefectures are reported: *Turbonilla magroi* Peñas & Rolán, 2010 and *Turubonilla* sp. The first species was newly recorded from a soft bottom site of Ago Bay in a depth of 60 m.

はじめに

南九州を中心に沿岸及び海岸生物の調査し、特に干潟、アマモ場などの希少な生物を報告してきた（三浦ほか，2012 など）。中でもトウガタガイ科腹足類は、3300 種以上を含み、とりわけ多様性が高い（WoRMS, 2021；三浦，2021a-f）。本稿では三重県と宮崎県で得られた未記録のトウガタガイ科巻き貝 2 種を報告する。なお、本研究に使用した標本は、宮崎県総合博物館に保管登録の予定である。

材料と方法

材料は、1984 年に三重県、2019 年に宮崎県から得られた 2 種各 1 個体である。船上あるいは実験室で前処理を行い、固定・水洗後 70% Alcohol に保存した。また、必要に応じて超音波洗浄機を用いて付着物を除いてから殻の形態を観察した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

Turbonilla Risso, 1826

ミエイトカケギリ（新称）

Turbonilla magroi Peñas and Rolán, 2010

(Figs. 1A–D)

Turbonilla magroi Peñas and Rolán, 2010, pp. 102–103, figs. 7D, 39F–I.

採集記録 1984 年 9 月 16 日三重県英虞湾浜島沖 水深 60.0 m, 34°14.30'N 136°43.33'E, Seisui84-R07 Station 502A (1).

形態・分布・生態 三重県浜島沖から得られた標本は、各螺層が極めて低いため、細かく縫合で刻まれた細長い円錐型である (Figs. 1A, B). 殻高 5.3 mm, 殻幅 1.2 mm であった (Figs. 1A, B). 胎殻は 2.5 階で、殻軸にほぼ 90° 異旋し、胎殻の各階が高いため、後生殻から横に突出している (Figs. 1B, C). 後生殻の螺層は 13 階で、殻は厚く、白色半透明で、内部の軟体が確認できる (Fig. 1E). 螺層の幅に対する高さの比は 43–45% 程度で平たく、螺層側縁は丸く、縫合は深く括れる。各螺層には体軸と 6° の角をなすやや太い縦肋があり、体層では 15 本である。縦肋は螺層周縁で消失し、殻底は平滑である (Figs. 1A, B). 肋間は、極めて広く、縦肋の 2 倍以上の幅があり (Figs. 1A, B), 肋間に螺条は確認できず、平滑である。殻口は扇形で、外唇が円弧状になるが、やや角張っている。軸壁は弱い。

得られた標本は低い螺層とまばらな縦肋の特徴を持ち、フィジーの 102–106 m から報告された *Turbonilla magroi* Peñas and Rolán, 2010 と同定された。英虞湾の水深 60 m で採取された本種との違いは、胎殻が 2.3 階（前種）か 2.5 階（本種）にある。その他、螺層の最大縦肋数も 13 か 14 本で、

Miura, T. 2021. Records on pyramidellid mollusks collected from Mie and Miyazaki prefectures, Japan: *Turbonilla magroi* Peñas and Rolán, 2010 and *Turubonilla* sp. *Nature of Kagoshima* 48: 87–89.

✉ TM: Hirata, Kitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 28 September 2021; published online: 29 September 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-019.pdf

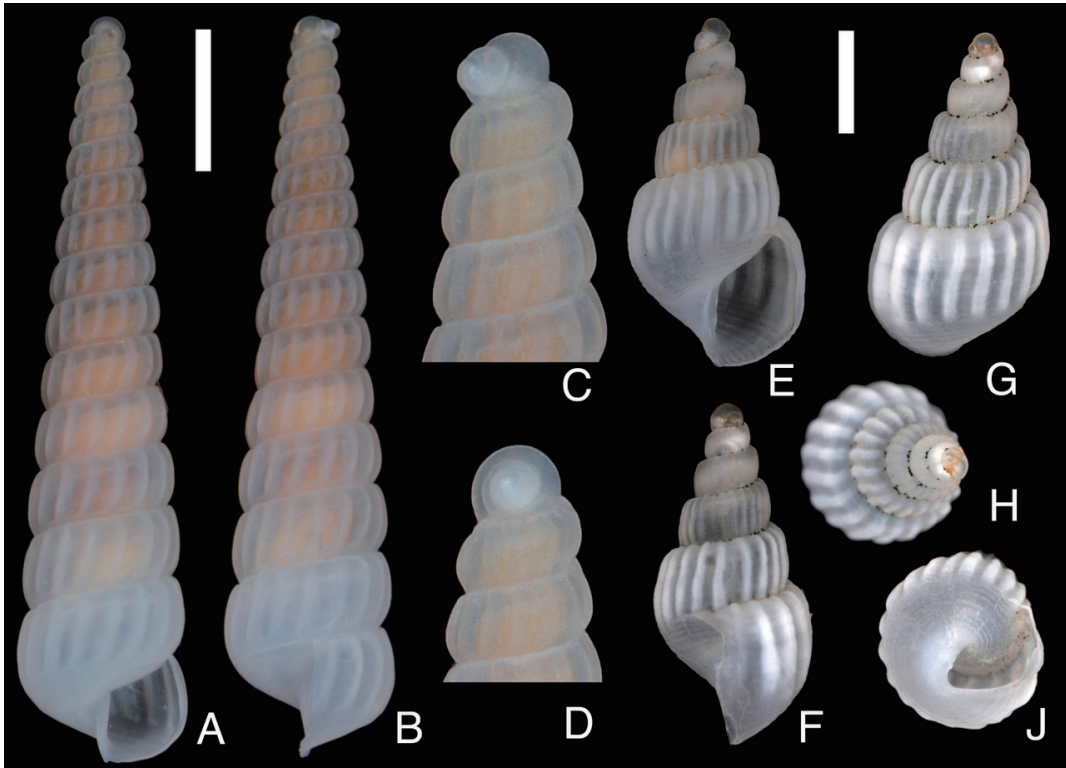


Fig. 1. A. *Turbonilla magroi* Peñas and Rolán, 2010 collected from Ago Bay, Mie Prefecture, ventral view; B. The same, lateral view; C. The protoconch of the same, lateral view; ;D. The same, dorsal view; E. *Turbonilla* sp., ventral view; F. The same, lateral view; G. The same, dorsal view; H. The same, upper-lateral view; J. The base of the same. Scale for A, B, E, F and G = 1 mm.

わずかに大きな三重県産標本との差は、個体差レベルと思われるが、本報では同一種と考えたが、新たな標本が得られ、観察制度が上がれば、別種と判断される可能性も否定できない。

円錐形で螺層の低い既知の日本産トウガタガイ科には、トクナガイトカケギリ *Turbonilla tokunagai* Yokoyama, 1920, ラッパイトカケギリ *T. hadakazimana* Nomura, 1938, ウネイトカケギリ *Turbonilla* sp. あるいはヨコヤマウネイトカケギリ *T. scrobiculata* Yokoyama, 1922 が知られている(堀, 2000, 2017; 三浦, 2021b)。トクナガイトカケギリは、胎殻が2階で本種の2.3–2.5階とは区別される(Yokoyama, 1920)。すでに報告したように、ラッパイトカケギリは螺層がさらに低く、高さは幅の45–47%程度で、ウネイトカケギリは縦肋が細く、肋間が狭く、高密度に並んでいるため、本種とは区別される(Nomura, 1938; 堀, 2000, 2017; 三浦, 2021b)。ヨコヤマウネイトカケギリは外殻

の概形が本種とよく似ているが、縦肋が融合して縦張肋を形成するため、本種のように整った円錐形にはならない(Yokoyama, 1922; 三浦, 2021b)。上記の日本産既知4種は、いずれも本種に比べ、太く短い概形を持ち、縦肋が多いため、区別は容易である。新称のミエは三重県と胎殻の2.5階(≒3重)を表現した。

ダンダンイトカケギリ (新称)

Turbonilla sp.

(Figs. 1E–J)

near *Turubonilla someiensis* Nomura, 1939, p. 136, pl. 9, fig. 16.

near ユウガイトカケギリ 堀, 2000, p. 713, pl. 355, fig. 63 as *Zaphella elegantula* (A. Adams, 1860); 堀, 2017, p. 1111, pl. 413, fig. 16 as *Turubonilla someiensis* Nomura, 1939.

採集記録 2019年8月1日宮崎市野島岩礁海岸南端砂洗い出し(死殻1)。

形態・分布・生態 宮崎市の岩礁海岸から得られた標本は死殻1個体であったが、形態のユニークさからあえて、記録することとした。殻高3.4 mm、殻幅1.8 mmであった(Figs. 1E–G)。胎殻は2階で、殻軸に対して約110°異旋する。後生殻の螺層は4階で、殻はやや薄く、白色半透明で、内側が透ける程度である。螺層に色帯はない。螺層の縫合下の側縁は肩張り、外殻が階段状になる。縫合は深く括れ、続く螺層の上部はテラス状になる(Figs. 1G, H)。各螺層には体軸とほぼ平行な縦肋がある。縦肋は上部で細く、下部がやや太く、直線的である。体層では21本で、螺層周縁で消失する。縦肋より肋間が希に広いが、多くはほぼ同幅で、第1および第2螺層では肋間が明らかに狭い(Figs. 1E–H)。肋間には螺条が見られ、殻底には8本の不等間隔の螺条が明瞭である(Fig. 1J)。殻口は扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状であるが、周縁で弱い角をなす。軸壁は弱い。

宮崎県で採集された標本の概形は、カゴメイトカケクチキレ *Pyrgulina casta* (A. Adams, 1861) とよく似ているが、本種の胎殻は110°異旋する一方、カゴメイトカケクチキレでは180°異旋して裏返った胎殻を持ち、属レベルの違いがある。他方、ユウガイトカケギリ *Turbonilla someiensis* Nomura, 1939 とダンダンイトカケギリの形態が一部で一致したため、比較すべき種として例示した。ダンダンイトカケギリは、螺層が下部に向かって著しく幅広くなり、塔型ではなく、ピラミッドのような低い円錐形になる点で塔型のユウガイトカケギリとは全く異なる。死殻だけが採集されているので、今後とも調査を継続するつもりである。

本稿で紹介した2種は形態が特異なので同定が簡単と思われたが、いずれも既知種でない可能性も考えられるため、今後も情報を集積し、検討が必要と思われる。

謝辞

本稿は採集標本を宮崎県総合博物館に移管す

るために分類整理した結果の一部であり、NPO 法人南港ウェットランドグループ理事の和田太一氏および西宮市貝類館学芸員の渡部哲也博士には、文献情報等の収集でご助力を頂いたことに深く謝意を表す。

引用文献

- Adams, A., 1861. On a new genus and some new species of Pyramidellidae from the North of China. *Annals and Magazine of Natural History*, (3) 7: 295–299.
- 堀 成夫, 2000. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会, 平塚, pp. 702–729, pls. 350–363.
- 堀 成夫, 2017. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会, 平塚, pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- 三浦知之, 2021a. 南九州で記録されたトウガタガイ科貝類—ホソイトカケギリ, クラエノハマイトカケギリおよびチャイロイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 33–36.
- 三浦知之, 2021b. 伊勢湾及び相模湾浅海で採集されたトウガタガイ科貝類—ヨコヤマウネイトカケギリ(新称), ラッパイトカケギリおよびウネイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 41–44.
- 三浦知之, 2021c. 南九州で採集されたトウガタガイ科貝類—ウスズミイトカケギリ, マルウスズミイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 45–47.
- 三浦知之, 2021d. 宮崎県庵川東入り江および他の浅海で採集されたトウガタガイ科貝類—シロイトカケギリ, ナガラウネイトカケギリおよびケイスケイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 57–60.
- 三浦知之, 2021e. 宮崎県と遠州灘で採集されたトウガタガイ科貝類の記録—エドイトカケギリ, ミカツキイトカケギリ類似種およびオタフクイトカケギリ類似種—. *Nature of Kagoshima*, 48: 69–72.
- 三浦知之, 2021f. 宮崎県, 鹿児島県および沖縄県で採集されたトウガタガイ科貝類の記録—ハリノホイトカケギリ, オオチリメンギリおよびヨシナリイトカケギリ—. *Nature of Kagoshima*, 48: 83–86.
- 三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, 58: 51–68.
- Nomura, S., 1938. The third report on Pyramidellidae based upon the specimens preserved in the collection of the Saito Ho-on Kai Museum. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins*, (16): 1–88, pls. 1–15.
- Nomura, S., 1939. Summary of the fossil and recent Japanese Pyramidellidae, with the descriptions of several new species. In: Jubilee Publication in the Commemoration of Professor H. Yabe, M.I.A. Sixtieth Birthday, 1: 119–156, pl. 9.
- Peñas, A. and E. Rolán, 2010. Tropical Deep-Sea Benthos volume 26: Deep-water Pyramidelloidea of the Tropical South Pacific: Turbonilla and related genera. *Muséum national d'Histoire naturelle*, Paris, 436 p. (Mémoires du Muséum national d'Histoire naturelle; 200).
- WoRMS, 2021. <<http://www.marinespecies.org>> (2021.5.17).
- Yokoyama, M., 1920. Fossils from the Miura Peninsula and its Immediate North. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, 39: 1–193, pls. 1–20.
- Yokoyama, M., 1922. Mollusca from the Upper Musashino of Kazusa and Shimosa. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, 44: 1–200 + viii, pls. 1–17.